

第8回青梅市総合長期計画審議会会議録（概要版）

- 1 日時 平成24年8月30日（木）午前10時～正午
- 2 場所 青梅市役所 2階204・205・206会議室
- 3 出席委員
篠原委員、館委員、米村委員、山井委員、和田委員、杉村委員、安間委員
野崎委員、志村委員、稲葉委員、岩田委員、村野委員、林委員
- 4 議事
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 基本計画素案に関する検討
 - ① 基本構想「まちの将来像」等について
 - ② 基本計画素案について
 - ③（仮称）ぷらっとフォームについて
 - (3) その他

（配布資料）

- 資料1 第7回審議会意見等の分野別整理
- 資料2 基本構想事項の検討
- 資料3 第6次青梅市総合長期計画 基本計画素案（第3稿）
- 参考資料1 第6次青梅市総合長期計画 「まちの将来像」案
- 参考資料2 第5次青梅市総合長期計画 チャレンジプログラムの検証
- 参考資料3 （仮称）ぷらっとフォーム（施策連動型の仕組み）（案）

第 8 回 審 議 会 会 議 録 (概 要 版)

発 言 者	会 議 の て ん 末 ・ 概 要
会長	(開会)
事務局	<p>前回では基本計画の骨子を説明していただき、「施策連動型の仕組みづくり」について審議をしました。今日は、まちの将来像と、基本計画素案、施策連動型の仕組みづくりについて議論していきたいと思います。それでは、次第に従って、(1) まちの将来像等について事務局から説明をよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>まちの将来像等について配布資料に沿って説明</p>
会長	<p>基本構想、基本計画、実施計画の枠組みを説明いただいて、まちの将来像について今のところの案を示していただいた。これについて、質問、意見がありましたら。</p>
委員	<p>基本的なことですが、まちの将来像は基本計画素案の中ではどこに入るのか。</p>
事務局	<p>まちの将来像は基本構想の中で示したいと考えています。参考といたしまして第5次青梅市総合長期計画後期基本計画の11ページをご覧くださいますと、基本構想の部分で現在のまちの将来像を示しています。今回の将来像はこの部分に位置づけるものです。</p>
会長	<p>よろしいですか。他にいかがですか。</p>
委員	<p>非常に具体的な文章で、10年前から比べますと大きな進歩と私は思いました。ありがとうございますと言いたいです。</p>
会長	<p>まちの将来像案について、私の個人的な意見ですが、1だと「みどり・くらし・心豊かに 未来へつながるまち」では、これは青梅でなくてもどこでも書けるので、やはり青梅ならではの表現が出ていることが必要だと思うので、2の方が、青梅らしさがでて思う。しかし、将来像はなるべく簡潔にという話もあるので。また将来像は先ほど説明のとおり、基本計画の前段にある基本構想のところで示すことになっている。それでは、(2) 基本計画素案について説明をよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>基本計画素案について配布資料に沿って説明</p>
会長	<p>前回、骨子が示されてだいぶ議論をした部分もありますが、今日</p>

	改めて基本計画素案を提示していただきました。質問あるいはご意見がありましたらどうぞ。
委員	事前に郵送頂いた第2稿と第3稿とどこが違うのか説明を。
事務局	本日の第3稿は、第2稿と中身、内容、趣旨については基本的に大きな変更はありません。主に誤字等を精査して表記を整えたものです。
会長	よろしいですか。はいどうぞ。
委員	<p>基本計画総論の「計画の目的」の1行目「まちの将来像の実現にむけて」は「青梅市」の将来像ではないか。</p> <p>「計画の役割」に①から④とあるが、文章表現として非常にわかりにくい。</p> <p>「基本計画の体系」の順番について若干違和感があるが、前回の5つの柱を10個に分けて、第5次を踏襲しているのだが、文化・交流活動に関する施策が上にあって、都市基盤や健康に関する施策が下にあると感じました。</p> <p>基本方向の7番目で「活気ある産業で雇用が生まれる」と書いてあるが、雇用というと何か雇われて働くというか、雇用機会とか狭いイメージがあるので、「活気ある産業で多様な就労が生まれる」とかそんな感じに検討していただきたい。</p> <p>「商業」の基本施策に「観光商業の振興」という言葉があるが、観光客を対象にした商業の活性化をとということなのかあまりイメージがわからない。</p> <p>「観光」の現状と課題の1行目に「個人・滞在型・女性中心」とあるがこの表現が的確かどうか、また、「日帰り旅行や街歩き」の「街」は一般的にひらがなで、他はひらがななのであわせていただいて。さらに「比重が高くなる」とは言いきれないので、「日帰りやまち歩き型への関心が高くなっている。」と表現してはどうか。</p> <p>また、「シティセールス」とあるが、こういう言葉を使うのであれば、何か説明をしていただきたいと思う。これがいい言葉なのか疑問があります。</p>
会長	言葉遣い、言葉自体について指摘していただきましたが。どうですか。
事務局	<p>基本計画総論の「計画の役割」については、ご指摘を踏まえたいと思います。この部分は、基本構想の計画の役割にもありますので。基本構想、基本計画セットでこの文言は整理させていただきたいと思います。</p> <p>体系の考え方については基本構想でのまちづくりの10の基本方向にもとづくものですので、素案の検討の中でご指摘を踏まえながら、あり方を検討したいと思いますが、基本的に基本構想を踏まえての内容ということになります。</p>
会長	それでよろしいですか。他にいかがですか。

委員	<p>基本計画素案総論の「計画の目的」の中で「施策の推進のための考え方や手法を明らかにし」と書いてありますが、多くの施策が「推進します」、「図ります」というような表現ばかりなので、考え方や手法ということになると、その部分はどこに書いてあるのかと思ってしまう。</p>
事務局	<p>考え方については、各論の部分の基本方針または基本施策の中で主に記述していく予定です。手法については、基本方針を受けて各基本施策の中で書き込むべきものと考えていますが、基本計画の下にぶら下がります実施計画で具体的な手法、事業について展開をしていきますので、そこにつながる表記を考えたいと思います。</p>
会長	<p>例えば施策分野の「森林」ではあまり方法論は書いてないが、「水辺」の基本施策の「親水事業の充実」では、水辺の楽校の登録や水辺のフェスティバルといった合同事業の開催などやり方について書いてあるので。書けるところと書けないところがあるかと。一番最初のところで注釈をつけるようなことがいいかもしれない。具体的には実施計画で書くという話でしょうから。</p> <p>総論に「地区別将来人口の推移」と11地区の人口推計が示されているが、これについて委員の皆さんはどう感じるか。それともこれを踏まえて施策にどう展開するか。青梅、長淵、東青梅が減るということは、今の青梅の中心部の人口が減るといことですよ。</p>
委員	<p>「地区別将来人口の推移」に関して、長淵地域は一時、昭和40～50年前後に山を切り開いて家が建ちました。車がないと生活できない場所であるなど無茶な開発であり、青梅は市域が広いのでスプロール化してしまった。そういう場所の人口が減少し、元に戻るのには仕方がないと思う。</p> <p>そういう地域から離れていく方々が、青梅、東青梅など比較的利便性の高い地域に移住してもらえるといいのでは。</p> <p>高齢になり車がなければ買い物や病院に行けなくなれば、どこかに行かなければならない。やはり青梅に住みたいという方も沢山いると思うので、市外へ出さないで、そういう方が移り住めるような体制を整えておくべきではないでしょうか。</p>
会長	<p>わかりました。ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>前回、欠席してしまったものですから、教育分野の中身について議論されていない印象を議事録をみて受けましたので、感想も含め申し上げたいと思います。</p> <p>今の学校教育の状況を考えた場合、基本計画素案の「学校教育」に関する内容は、第5次の計画と比較してみても教育の中身について大きな変化がなくて、今までやってきたことを充実しようという内容になっている。</p> <p>学校教育については、学校制度の問題や学校経営上の問題が大きく学校を変えていく方向になっているのに、基本計画素案の施策は、学力が足りない、体力が足りないから、それに向けた施策をどうするかといった問題解決型の施策になっている。そうではなく、今は開発型や創造的な教育施策があつていいと思う。問題があるか</p>

	<p>らそれを解決するのではなく、青梅らしさをもっと打ち出すことができる教育の中身はないのだろうかという内容を打ち出していく。</p> <p>以前、青梅の内容を学習するような構想を立ててはどうかと提案したが、そういう学校経営を推進する上で、教育委員会等が開発的に取り組むことについて提案をしていく必要があると思う。学校経営者である校長は、ここに書かれていることをやればいいんだという発想になってしまうので、自分達で教育を考えるよう打ち出していく必要があると思う。</p> <p>前から申し上げているが「みんなで育む」と表現がある割には、コミュニティスクールや地域運営学校の考え方や、小中一貫教育であることか、幼・小・中・高、例えば青梅総合高校とか、多摩高校とか、あるいは明星大学も含めて、教育の連携を図るような、総合教育を図るような、そういう取組が行えるシステムづくりを考えていかなければいけないと思う。</p> <p>学校の透明性が求められている中で信頼性を確保するよう、学校の情報公開という言葉があるが、学校教育活動を評価し公表していくような仕組みづくりというようなものが読み取れない。</p> <p>教員の養成は、研修の強化や資質・能力の向上というよりも、教員育成の制度を考えていくような視点に立って、優れた先生をもっと支援していくとか、青梅の中で青梅の学習ができる教員を養成するとか教員の育成まで先を見て考えるべき。</p> <p>特色ある教育活動について中身としては色々とでてくるが、今ある課題を解決するためにこれから10年先のことをやっていくだけではなく、青梅らしさを出すような教育活動を作り上げていかないと、学力の向上といった問題もすぐに結果がでるものではないので、そういう目標であると学校の活性化、先生のやる気がでてこないと思う。</p> <p>今回の基本計画では項目別になってしまっているので、青梅らしい教育というのがみえてこない。計画の中でもう少し経営に踏みこむとか、学校の仕組みに、学校教育の仕組みに踏み込むような提案があってもいいと思う。</p>
会長	<p>どうですか、企画が答えるのか、教育が答えるのかわかりませんが。</p>
事務局	<p>大きく5点、ご提言・ご指導を頂戴しました。全体にいえることですが、青梅らしさを出していく、創造性のある教育といったご指摘を踏まえて検討を重ねます。</p>
会長	<p>どうぞ。</p>
委員	<p>私たちが小学生の頃は、御岳山の宿坊で林間学校をやっていた。その時に見た霧の風景が青梅市民としての原体験となっている。青梅に住んでいても宿坊に泊ることがあまりないので、特に御岳山は日本の宝とまで評価している方々がいるので、こうしたことを子ども達に体験させてあげたい。</p> <p>繊維や印刷などのこだわりのある技術を持った地元の企業の見学するにしても、青梅の先生がそういう良さを知らないのではないかと思います。まず、青梅の魅力を教えてもらおう先生に、知ってもらおう機</p>

<p>会長</p> <p>教育長</p>	<p>会を与えることが必要なのでは。</p> <p>学力も体力もまずは意欲からだと思うので、子ども達の意欲を出さすためにはどうするか、家庭に頼ることが難しくなっており、親から鍛え直すのは大変だが、幼児期の早寝早起きといった部分から下支えしないと意欲が出てこないと思う。</p> <p>教育と子育ては連動するものであり、小学生になると勉強をする準備が整う訳ではないので、「ぷらっとフォーム」の中で「子育て」と「学校教育」はリンクするものだと思うので、視野を広めに、そうした連携から、意欲的な子ども達が、頑張ろうという気持ちを持てる子ども達を育てることができる。結果的に体力、学力もついてくるのではないかと思う</p> <p>教育関係の方から何かありますか。</p> <p>いろいろ教育の話がありましたので、私の方から考えていることを話したいと思います。</p> <p>委員から制度の問題でコミュニティスクールのお話を頂きました。コミュニティスクールですが、青梅の場合は、学校運営協議会ではなく学校運営連絡協議会がすべての学校にあります。青梅は地域が割としっかりしていますので、学校運営連絡協議会を活用しながら、地域の力なくして学校が存在できない状況もあり、地域の力を借りながら運営しています。</p> <p>学校運営協議会の場合は、教員の人事権のようなところもございますので、その辺が難しいとは思っています。八王子市では全部が全部コミュニティスクールではない。地域が希薄になっているところからはやっていくけども、しっかりとしたところは、それを大事にしていくんだというような考え方を述べられておりました。私も同感だと思います。</p> <p>青梅の場合は、まったく地域と乖離した教育をやっている訳ではなく、むしろ積極的に地域の力を借りながら、例えば学習活動の中にも地域の人材がかなり入っています。</p> <p>それから問題解決から開発的、創造的への転換はその通りだと思います。いじめなどについても起こってから対応する訳ではなく、予防的な対応から、基本的な人権教育、道徳教育をしっかりと取り組むなど開発的な教育への認識を持っています。</p> <p>小・中一貫ですが、青梅の場合は校舎一体型ではなくカリキュラムの連携で実施しています。幼・小・中・高・大があり、特に小・中はもちろん、都立青梅総合高校が地域に対して積極的に関わりを持っています。放課後子ども教室のボランティアをはじめ、釜の淵新緑祭などの社会教育の分野でも積極的に参加していただいています。また、第四小学校では、第一中学校、霞台中学校、吹上中学校、それから青梅総合高校と一緒に音楽会などを実施しているなど連携がとれていないということではない。今後もそうした連携を進める必要があると思っています。</p> <p>ぷらっとフォームの関係で、学校教育だけではなく家庭の力が大事なのではと思っています。私の考えですが、学力の問題は家庭学習が重要であり、こうした家庭学習を通じて家庭の状況も把握でき、家庭と学校の絆になっていければと思っています。さらに、学習の定着においても非常に大事なので家庭学習をしっかりしていた</p>
----------------------	--

<p>会長</p>	<p>だく方策を考えているところです。</p> <p>家庭の力が落ちたということですが、家庭は家庭ということではなく、プライバシーに配慮しつつ学校も家庭に踏み込みながら家庭を支援している部分もありますので、連携を図りながら、しっかりと教育をしていきたと思います。</p> <p>このあと議論するふらっとフォームについて、学校教育が出てくるので、そこで議論して、基本計画の中で具体的な記述ができるかどうかを検討してもらえばよいと思います。</p> <p>個人的な話をすると、宮城県日向市のまちづくりの仕事に関連して、小学生の課外授業をしましたが小学校の先生はつくづく大変だと感じました。90人の生徒と2時間ぐらいやったけどへとへとになる。また、教育の問題は国、都との関係もあり、青梅だけでどうできない部分もあるから難しい。</p>
<p>委員</p>	<p>だから地域で支えないといけない。</p>
<p>委員</p>	<p>このあとの議論に関わってきますが、基本計画素案では、基本施策で学力・体力とかの項目立てになっているが、こうしたものも小・中一貫教育の推進の中で学力向上や体力向上に取り組める訳で、心の問題、いじめの問題にしても、小中学校の学校施策の問題がクリアされることによって、いじめの問題が解消されてくるという報告もある。</p> <p>ひとつひとつこうした項目を掲げて目標にするのではなく、学校教育の制度やシステムを作ることによって、中身として教育の内容が充実してくるという考えに立てないのかというのが私の提案です。</p> <p>特別支援教育の推進でも、小学校・中学校が特別支援を必要な子ども達を継続して支援する体制をとっていくから子ども達の将来につながって行くと思う。</p> <p>基本施策の項目は正しいが、「教育環境・施設の整備」で「老朽化への対応」で書き出してあるが、そうではなくて、老朽化を前提にした小中一貫教育の設営はどうなってくるかという発想になってくるのでは。</p> <p>学校経営のいろんなシステムを考えながら連動させていくような、そういう仕組みができるのではということ提案します。</p>
<p>会長</p>	<p>これは青梅だけの問題ではなく重要な問題で、議論した方がよいことだと思うが、ここでいろいろ議論しても、学校の先生がやる気にならなければ文章だけになってしまう。本格的にやるんだったら、現場の小・中・高校の先生と議論しなければいけないでしょう。</p>
<p>委員</p>	<p>今の話しを聞きながら、今は基本計画素案について議論しているが、基本計画の後に実施計画で具体的な計画が出てくる。この実施計画の部分の方が多いのではないかという印象がある。現状と課題については現在のことですから進行形の話だが、基本方針とか基本施策になってくるとほとんどが未来形であり、基本計画の基本方針や基本施策にはきれいごとが並んでいるような印象がある。施策は</p>

	<p>第5次の計画から継続が多いとは思いますが、第6次で何が新しくなったのかというところ、メリハリが見えにくい。</p> <p>財政の見通しがある部分は評価できる。財政状況を踏まえて計画を実施するには財政の均衡を図らなければいけない非常に難しい問題がある。基本計画では明確でない部分は実施計画になれば具体的になると思う。それは後で作成、検討することになるのか。</p>
会長	<p>基本計画は項目別に書かれていますが、項目ごとにそれをまとめて、有効な施策として打ち出すにはどうするかということで、「ぷらっとフォーム」が考えられていて、それが実施計画ともつなぎになる。こういうものを重点的にやりましょうということになったら、それをより具体化するのには実施計画になると思います。3番目の（仮称）ぷらっとフォームについて説明していただいて、再度議論したいと思います。</p>
事務局	<p>（仮称）ぷらっとフォームについて配布資料に沿って説明</p>
会長	<p>チャレンジプログラムの総括について、本当の課題が何かよくわからないので補足説明を。</p>
事務局	<p>これまで関係課との議論をもとに企画でまとめた資料で、例えば「青梅の森」プログラムの実施主体については、公園緑地課といった部門を中心にプログラムの総合的な管理をしながら、関連の民間等の団体とも連携して進めるという意味では、実施に向けて組織的にはわかりやすいという趣旨でした。今後、立ち上げ予定の協議会も専門家の委員会と連携するような形が見えてきていることから、仕組みとしては動くことができたと評価したものです。</p>
会長	<p>「横断的な取組による事業推進という面で課題がある」というのはどういう課題か。</p>
事務局	<p>「青梅の森」の推進協議会はこれから立ち上げますが、官民連携による推進の中身というのはこれからですので、そういう趣旨で横断的な取り組みの課題と認識しました。</p>
会長	<p>横断的に議論する場を協議会として今から設定するのでまだ課題として残っているという意味ですね。わかりました。</p>
委員	<p>今の「青梅の森」の話など、第5次のチャレンジプログラムでは、推進体制として行政だけではなく外部の参加ということを考えていて、実際に参加していたのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>行政以外も考えていたのでは。</p>
事務局	<p>考え方としては第5次総合長期計画のチャレンジプログラムの展開イメージにあります、仕組みとして協働・連携を想定しておりました。</p>

会長	実際はどうでしたか。
事務局	8つのプログラムで様々な取り組み方がありますが、「青梅の森」については、専門家、有識者のチームとの意見交換をしつつ、個々には森林ボランティアとの連携など個別の実施主体との連携による事業を進めてきています。
委員	この検証での推進体制の書き方だと、行政がやっているということで、外部からの参加が見えていない。外部との相談や打ち合わせもなく、行政が主体となって動いていると受け取られますよね。
会長	「青梅の森」プログラムに限っていえば、この推進体制の記述は誤りですよ。実際には専門家もボランティアも入ってもらって実施した。だから上手くいったことになっている。記述のミスだと思います。
委員	<p>ぷらっとフォームの案を見て、「子育て世代が住みたい青梅」では、学校教育、子育て支援、取り上げられていますが、親の支援も必要だということでしたら、ここに是非、社会教育入れていただければと思う。</p> <p>学校教育で補えないところを、親への支援のところでは、小・中学生を抱える親が、実際には仕事だけに従事しながら、子どもに関することがだんだん手薄になっていく。そういう親がどこで子育てを学ぶかという、社会教育のところではないかと思う。</p> <p>社会教育課はそういうところに着眼されて、いろんな親向けの事業を展開させていただいています。そこから学校教育につながり子育て支援に繋がる現実を見ている。青梅に住む子育て世代、特に学童期、高校生までの親達の応援をするために、社会教育ということを考えていただければと思います。</p>
委員	<p>ぷらっとフォームでの「子育て世代が住みたい青梅」の特に子育て支援のところ、異年齢交流ですとか、認可保育所、放課後子ども教室支援事業とかいろいろありますが、例えばこうした事業に加えて、様々な障害を持っている子ども、また、不登校の子どもといった、何らかのハンディを持った子どもが少なくないと思います。そういったハンディをもった子どもでも青梅だと伸び伸び子育てができるとかニーズが多様になっているので、いろいろな意味でのハンディ、障害ということだけでなく家庭のハンディとかを含めた多様なニーズに対応できることも重要ではないかと思います。</p>
委員	<p>このぷらっとフォームという仕組み自体というか、ここに掲げている意味が今ひとつ理解できてなくて、第5次総合長期計画後期基本計画の26ページにでている展開のイメージの仕組みのところをもっと強調して、それにぷらっとフォームという名前を付けたということなのか。</p> <p>施策連動型の仕組みがぷらっとフォームだと説明されていたが、基本計画素案のP100の下段では「施策を展開させるための基礎や土台となるものを意味しています」と書いてあるので、この2つの言</p>

事務局	<p>葉を見ただけでは、内容が別のものを連想される。それから、ネーミングについては、プラムを連想させていますとある説明を見ないとわからない。</p> <p>プラットフォームという表現は、NPOとかで一般的に使われており、そういったものをイメージするが、そういったものと別なものなのかどうかわかりにくい。土台となるプロジェクトのことを言うのであれば、第5次でのチャレンジプログラムで協働や連携を活用したプロジェクトを立ち上げるとした方が分かりやすいのでは。</p> <p>ぷらっとフォームという言葉を使ったことによって、仕組みなのかプロジェクトなのかわかりにくくなってしまっているような気がします。</p> <p>ぷらっとフォームということで、施策連動型の仕組みということ在意図しておりまして、基本的には、チャレンジプログラムでの施策が横断するという仕組み、趣旨、考え方は同じものです。仕組みの中で動かしていく上で、いろいろとソフトを動かしていく柱を軸にして、大項目、中項目というテーマで連携をさせていきたいというところですが、委員のご指摘のとおり、まだ仕組みとして練れていない部分もあり、ネーミングも含めて検討します。</p>
会長	<p>例えば、議論の場を設定するという意味が、プラットフォームの本義だと思いますが、例えば「子育て世代が住みたい青梅」を設定して、これがプラットフォームだとすれば、協議する場所か、決定する場所か、事業実施をする場所か明快にしにしておく必要があると思う。普通プラットフォームというと議論する場なので。</p>
委員	<p>ぷらっとフォームは、イメージ的には一種の三セクのようなものでいいと思う。子育てに興味のある団体やNPOなどがぷらっとフォームに集まり、民間だけでは動ききれないところを行政も支援するといったように、官民が連帯し、そういうステージを用意する。意欲ある市民が参加する。そして動き出す。そこを行政がきちんと下支えする形が理想だと思う。</p> <p>市民活動もかつての黎明期から、非常に充実した動ける団体、ある程度法律に精通したが入ってきており、素人とはいえないような活動している団体が沢山ある。そういうものと連帯しながら動き出せるところから動き出して、最初はぷらっとフォームの中身が3つかもしれないが、それが4つや5つになり、実施主体が増えていくことによって、活動が推進していく。それを目指すのが合理的なのではと思う。</p>
会長	<p>ぷらっとフォームは、関心のある個人や団体、専門家に入ってもらって、民間でやれることは何か、市役所でやってもらいたいことは何かといった議論から始まると思う。しかし、誰がまとめ役になるのか、まとめ役は大変かと思うが。</p>
委員	<p>できなくはないと思います。できないところは仕方ないが、できることからやる。</p>
会長	<p>できるとは思いますが、まとめ役が大変ですよ。</p>

委員	<p>市では、各課に市民活動推進のための担当を設置したと聞いています。そういった行政の各課に設置された行政の方と意思のある市民活動の方がふらっとフォームで、協議会なり実行委員会なりを作って、その中で協議して、小さいところからでいいですから、目的の達成のために具体的にどうすれば実施できるのか協働していけば実現していくと思います。</p> <p>こうしたふらっとフォームで実現できた部分を、市民と協働しながら前向きに行政は進んでいますよと、ホームページなどで積極的に市民に公表していけば、そういった協議できる場があり、提案できると市民が知り、活動につながれば市民活動の活性化にもなると思う。このふらっとフォームというのは深く考えないで、協議できて、そして具体的に考える場所ができたな、という風に受け取りました。</p>
会長	<p>これに手を挙げる人がどれくらいいて、そういう活動を市がどのくらいバックアップするかが重要だと思う。</p>
委員	<p>こうした活動をやりたいと思っている人は多い。</p>
委員	<p>市民提案型協働事業の公募の際に市民活動推進課の方がどのくらい応募があるか心配されていましたが、予定よりも多く応募があったと聞きます。書類審査、プレゼンテーションを経て、具体的に市民の声が反映できる事業が今年度の後期に実施できるようになっていますので、それは大きな進歩だと思います。第1回目ですが、これが定着してくれば、どんどん市民から声が市民から上がってくると思います。</p>
会長	<p>ふらっとフォームについて、名称はともかく、行政、市民、団体、専門家を問わず、こういう場を設定して議論をしていくのはよいと思う。</p>
委員	<p>市が主導して、市が事業を推進するために民間の人に集まってもらって、やっていく形ではなく、対等に協議会の場で限定することなく議論していける、割りと自由な場で、市の色々な課の職員が参加することで、違う分野の意見を聞いて施策に反映されるような形で動かされて行けば非常にいい、理想的な形だと思う。</p> <p>この計画を受けた市民の皆さんがきちんと認識して参画していくというような形になれば素晴らしいと思う。</p> <p>これまでは、行政の事業や個々の施策を推進するために、ばらばらでやっているものを市の主導で連携しようとするものであったが、同じ共通の立場で市民や団体が入って、目標が「子育て世代が住みたい青梅」といったように、やや漠然としている方が議論しやすいのではと思う。</p>
委員	<p>ふらっとフォームについては、市と色々な団体とでどういうやり方がよいのか、これから検討していく意味ではよいだろうと思う。また、ネーミングについてはあまりブラムにこだわることはないと思う。</p>

委員	<p>現計画である後期基本計画23ページでは「計画期間における人口の推移」ということで推計結果の事実だけを記載しているが、今回の基本計画素案の総論部分で「地区別将来人口の推移」では目標年度に134,228人と現在から5千人ほど減る推計を掲載しているが目標人口は約千人減の138,000人である。それに対してその文章では「様々な施策展開による人口増加を目指し」ということだけで説明しているが、4,000人増とする想いを入れておく必要がある。題名が「地区別の将来人口の推移」ではなくて「計画策定上の目標人口」ではないか。138,000人になる理由なのか施策のいくつかの例示など少し補足した方がよいと思う。</p> <p>施策分野の「防災」の基本施策の中で「地域防災体制の整備」に関して、いろいろ書いてありますが、青梅の中で気になるのは、道路一本の突き当たりの集落というか、限界集落の対策といったものを実施計画の中で載せてもらいたい。</p> <p>「市民の防災意識の高揚」に関して、家具転倒防止器具の助成などがありますが、別の箇所です住宅の不燃化や耐震化等が表現されています。そこだけではなく、やはり全体としてどういうものに市民に力をかけてもらうといいか、わかってもらうためにも重複しますが、ここに記載してあるとよいと思う。</p> <p>「防災施設・設備の整備」に関して、青梅市の中での災害があった場合のことが書かれているが、ボランティアが入ってきた時の受援体制をどうするか、他が被災地になった時に青梅が何をできるかという援助体制について、どこの市町村の住民の方々が、ボランティアをお願いするとか、どこの市町村にボランティアに行くとか、消防は消防でやるとしても、災害地との応援あるいは災害を助けてくれる地域との事前の準備に取り組んではどうかと思う。</p> <p>学校の先生の社会体験に関連して、各地区の小学校、中学校、1学区に1人でも2人でも、あるいは1つの学校に1人でも2人でもいいですけども、学校の教員の方に消防団に入っただくことは難しいのか。先生方が消防団に入ると色々な意味で影響力があるかと思う。市の職員は事務主任という形で各分団と一体となって活動していますが、学校の先生が消防団を知っていてもらうとよいと思う。新任の学校の先生には是非いろいろな職場体験、消防でも警察でも、数多くの社会的な経験を積んで生徒に反映をしていただいではどうかと思います。</p> <p>基本計画、実施計画もそうですが、途中で見直しという作業がきっと必要だと思いますが、その見直しにおいて、市民の意見が入るようなことを考えていって、この計画の中に盛り込んでおいてもらいたい。計画の評価は、自己評価だけではなく、市民の声も入った、特に若い世代の意見が入るような検証の仕方、評価の仕方を検討してもらいたいと思います。</p> <p>評価や検討に当たっては、数値目標が設定できるものは目標を設定して、評価しにくい施策や事業もあると思うが、それを検証していくためにも市民の意見が入る検証体制というものを計画に入れてほしい。</p> <p>先ほどの話で開発型の教育の話がありましたが、教育以外の全てのことについて当てはまるとは思います。問題解決型だけでなく開発型という意識を非常に強く持ってほしい。そうすることでや</p>
----	--

	<p>る気というのは発揮されると思う。</p> <p>今年機会があって出身校の小学校で授業をさせてもらった時に、フィールドワークをしましょうと提案したら、先生方はやりましょうと即答して下さいました。こうした経験から、学校の先生のやる気というか、意識は高いと思いますが、そのやる気を引き出せるようなアイデアがなかなか内部だけでは出ないのではないかという気がしたので、そういう仕組みづくりが重要ではないかと思う。</p> <p>そのひとつが施策連動というような考え方で、パッケージ化して推進していく。これは今までの計画の考え方にはない新しい部分だと思うので、青梅らしさ、独自性ととも、青梅に住みたくなるようなものをつくっていくためには、こういう形がよいと思う。このやり方、パッケージングの仕方については、是非計画の中で述べていってほしい。</p> <p>情報共有するというのを大きく評価していただきたい。隣の部署が何をやっているのかわからないという状態はもうやめていただきたい。例えば「子育て世代が住みたい青梅」というテーマを掲げ、目標として子どもを3人産んでいただけるようなまちにしようとした場合に、そうした目標をすべての課で把握してそれぞれの課でアイデアを出すような仕組みを作ってもらいたい。また、市役所内だけでなく、広く市民に伝わるような情報共有の体制を作ることも計画に入れてほしい。</p>
委員	<p>基本計画素案の「市民参画・協働」の現状と課題の中の自治会活動についての課題の記述について、若年層の未加入や高齢になって辞めていくのも事実だと思うが、自治会連合会の加入率は人口ではなく世帯単位であり、自治会加入率の低下に対して加入率の促進に自治会で取り組んでいるが、人口は減少傾向だが世帯数は増加傾向にある。そういう状況にあって、新しく入ってきた世帯が自治会に入ってくれない、高齢化にともなって自治会を退会するという現象で加入率が落ちている。自治会役員の高齢化ということだが、我々自治会役員の年齢は調べたことはありませんし、そんなことをいっていただければ自治会役員が90だ100になるものですから、文言を検討してほしい。</p> <p>自治会活動が続けられなくなるといった実情としては、御岳の一部の地域で加入者の高齢化によって自治会活動ができないという話も出ています。</p> <p>基本施策の「地域コミュニティ活動の支援」で、「加入率向上や自治会活動の活性化に向けて方策を検討し、取り組んでいきます。」と記載されていますが、現状でも支援をしてもらっていることを踏まえて、「さらに協力します」といった表現にしてほしい。</p>
会長	<p>正確な記述にしてくださいということです。それでは事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>今後の審議会の開催日程について説明。</p>
会長	<p>審議会はあと2回ありますのでよろしくお願ひします。それでは、第8回の青梅市総合長期計画審議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>

	(散会)
--	------